

クラスター	地域健康増進系クラスター			
授業科目名	生活習慣病対策・予防疫学研究の実践			
担当者名	責任者	野村 恭子	分担者	—
単位数	1単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	実験実習		実施場所	授業計画の〔実施場所〕を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的: 秋田県が直面している生活習慣病のうち, 脳血管疾患に着目。高血圧への予防介入, 循環器予防疫学について全般的に学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の到達目標: 家庭血圧におけるガイドラインのエビデンス発症の地となった大迫コホート研究に実際に参加し, 30年の歴史ある循環器コホート研究について学ぶことを目標とする。</p> <p>授業の概要: 大迫検診に参加し, 高血圧と脳心血管系疾患の疫学研究ならびにデータ解析について学ぶ。</p>				
授業計画				
	講義 (講義)	題目 (内容)	担当教員	講座名 〔実施場所〕
1	オリエンテーション		野村 恭子	衛生学・公衆衛生学講座 〔セミナー室〕
2				
3				
4				
5				
6	大迫コホート研究: 高血圧と脳心血管系疾患の疫学研究		野村 恭子	衛生学・公衆衛生学 〔大迫コホート 研究フィールド〕
7	データ解析			
8				
9				
10				
授業形態および成績の評価方法・基準				
講義室での講義および実験実習において, 指導教員とのディスカッション30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と提出したレポートの内容を考慮して行う。				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)				
野村 恭子, knomura@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
履修に関する情報: 大迫検診に11月から3月まで, 月1回のペースにて前泊して参加(1回につき参加者は2名まで。旅費は応相談)。実習に参加できることが履修の条件となる。 教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。 自学自習における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。				

クラスター	地域健康増進系クラスター			
授業科目名	労働衛生			
担当者名	責任者	野村 恭子	分担者	前田 恵理, 岩田 豊人
単位数	1単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	講義・実習		実施場所	授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	2021年9月			
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します			
授業の概要・到達目標 授業の目的:労働衛生について理解することを目的とする。 授業の到達目標:講義, 実習を通じて, 地域の労働衛生の課題について理解を深めるものとする。 授業の概要: 職場見学(3か所程度)を行う。 各事業所について下記の項目を中心に、教員とのディスカッションおよびレポート提出を行う。 1. メンタルヘルス対策 2. 感染症対策 3. リスクアセスメントの実施 4. 労働災害・通勤災害の予防 5. 有害化学物質の管理 6. 騒音対策 7. 労働衛生の三管理				
授業計画				
	講義 (講義)	題目 (内容)	担当教員	講座名 [実施場所]
1	オリエンテーション		前田 恵理	衛生学・公衆衛生学 [講座セミナー室]
2	実習(9月21日・22日・24日・27日のうち3日間)		前田 恵理 岩田 豊人	衛生学・公衆衛生学 [学外実習施設]
3				
4				
5				
6				
7				
8	まとめ		岩田 豊人	衛生学・公衆衛生学 [講座セミナー室]
9				
10				
授業形態および成績の評価方法・基準 講義および実習30時間＋自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と口頭試問およびレポートの内容を考慮して行う。				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等) 前田 恵理, erimaeda@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項 履修に関する情報:実習に参加できることが履修の条件となります。 教科書・参考文献:必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。 自学自習時間における学習内容:到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。				

クラスター	地域健康増進系クラスター			
授業科目名	メンタルヘルス実践学			
担当者名	責任者	野村 恭子	分担者	YONG KIM FONG ROSELINE
単位数	1単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	講義, 実験実習	実施場所		授業計画の[実施場所]を参照
開講期間	2021年10月～2022年3月(日程の詳細は応相談)			
開講曜日・時間	毎週火曜日 18:00～21:00(日程の詳細は応相談)			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的: 人が日常的に働き, 学び, 他者と関わり, さまざまな社会参加を実現していくために重要な地域メンタルヘルスの考え方を学ぶ。ひきこもり(社会から離脱し孤立した状態)のリハビリテーションや地域における自殺防止策などを学習する。</p> <p>授業の到達目標: 自らの属する地域や職域等において, 必要なメンタルヘルスについて考え, 具体的な対策および研究計画を立案することを目標とする。</p> <p>授業の概要: 日本語と英語の両方を使用し, 冒頭に30分間のレクチャーを行う。その後60分のディスカッションを経てプレゼンテーションを30分, 続いてそのフィードバックを30分間行う。議論は, 5W1H (What, Who, When, Where, Why, How) の原則に従う。</p> <p>Good mental health enables individuals to work, to learn, to engage with other people and to participate in society. In this module, we will cover the topic of hikikomori (a phenomena of social withdrawal and isolation) rehabilitation and suicide prevention in community. The class will be conducted in both Japanese and English, 30 minutes of lecture in the beginning, followed by 60 minutes discussions, 30 minutes presentations, and 30 minutes feedback. Students should prepare themselves in the basic of qualitative and quantitative research, social determinant of health, and health communications, prior coming to the class. Discussions wil follow 5W1H principles (What, Who, When, Where, Why, How)</p> <p>1,2. Orientation 3,4. Community care for hikikomori 5,6. Community suicide prevention 7,8. Fieldwork and research methods 9,10. Intermediate research presentations 11,12. Open forum</p>				
授業計画				
	講義 (講義)	題目 (内容)	担当教員	講座名 [実施場所]
1	オリエンテーション		YONG KIM FONG ROSELINE	衛生学・公衆衛生学 [講座セミナー室]
2				
3	ひきこもりの地域ケア		YONG KIM FONG ROSELINE	
4				
5	地域の自殺と予防		YONG KIM FONG ROSELINE	
6				
7	フィールドワークと研究手法		YONG KIM FONG ROSELINE	
8				
9	研究中間発表		YONG KIM FONG ROSELINE	
10				
11	研究発表(公開フォーラム)		YONG KIM FONG ROSELINE	
12				
授業形態および成績の評価方法・基準				
<p>セミナー室での実習+自習, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と提出したレポートの内容を考慮して行う。15hours of class and 15 horus of fieldwork/research. Evaluation is based on attendance and reports.</p>				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)				
YONG KIM FONG ROSELINE, roselineyong@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
<p>履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。</p> <p>教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>自学自習時間における学習内容: ※ 国内・国外新聞に目を通し, 健康に影響を及ぼすと思われる記事を2本選び, 5W1Hの基準でレポートする。何が起きている(What), 影響を受けるのは誰か(Who), その影響はいつから始まるか(When), 影響される範囲は(Where), 原因(Why), その発展の仕方(How)。質的・量的研究, 健康の社会的決定要因, ヘルスコミュニケーションの基礎についての事前学習をしておくこと。</p>				

クラスター	地域健康増進系クラスター			
授業科目名	学術研究から考える少子高齢化対策			
担当者名	責任者	野村 恭子	分担者	前田 恵理
単位数	1単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	Web Class		実施場所	授業計画の〔実施場所〕を参照
開講期間	2021年4月下旬～2021年12月31日			
開講曜日・時間	—			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的: 昨今, 我が国は, 超少子高齢化社会に突入しており, ここ秋田県ではそれが顕著に表れている。少子高齢化社会の健康問題としては, 若い女性のやせと低出生体重児の増加, 就労にともなう月経関連症状や排卵異常, 妊娠合併症などから, 高齢者の寝たきり, とくに女性の健康寿命の延伸を目的とした公衆衛生学的な課題が多数あることについて学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の到達目標: 学術研究からどのような対策が立てられるのかに焦点をあて, 問題提起を行う。問題提起される領域において, どのような学術研究が行われているのかを調べ, そこからどのような研究がさらに必要なのかワークを行うことを目標とする。</p>				
授業の概要:				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究から考える超少子高齢化対策 2. プレコンセプションケア総論 3. 魚介類摂取とプレコンセプションケア 4. 日本の不妊治療と日産婦ART-DB 5. 女性の就労と健康 6. フレイル予防と健康寿命延伸 				
授業計画				
	講義 (講義内容)	題目	担当教員	講座名 〔実施場所〕
1	学術研究から考える超少子高齢化対策		野村 恭子	衛生学・公衆衛生学 〔Web Class〕
2	プレコンセプションケア総論		前田 恵理	
3	魚介類摂取とプレコンセプションケア		前田 恵理	
4	日本の不妊治療と日産婦ART-DB		前田 恵理	
5	女性の就労と健康		野村 恭子	
6	フレイル予防と健康寿命延伸		野村 恭子	
7				
8				
9				
10				
授業形態および成績の評価方法・基準				
WebClassでの講義30時間＋自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は提出したレポートの内容を考慮して行う。				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)				
野村 恭子, knomura@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
履修に関する情報: WebClassにて講義を各自視聴する。 ※視聴推奨期間 4月下旬～12月31日 教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。 自学自習における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。				

クラスター	地域健康増進系クラスター			
授業科目名	疫学研究			
担当者名	責任者	野村 恭子	分担者	—
単位数	1単位(選択)		配当年次	1年次
授業形態	Web Class		実施場所	授業計画の〔実施場所〕を参照
開講期間	2021年4月下旬～2021年12月31日			
開講曜日・時間	—			
授業の概要・到達目標				
<p>授業の目的:大学院博士課程における研究立案に必要な疫学方法論の概要について学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の到達目標: Evidence based Medicine(EBM)のステップに沿って、PICOによる仮説の立て方、研究デザインの選定のため、各種デザインの長短を学び、研究計画書を書くために必要な基礎的な疫学に係る知識を習得することを目標とする。</p> <p>授業の概要:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学研究デザイン, EBMとPICO 2. 横断研究 3. Case Control Study 4. Cohort Study 5. RCT 6. スクリーニング検査 7. メタアナリシス 8. 質的研究と混合手法 				
授業計画				
	講義 (講義)	題目 (内容)	担当教員	講座名 〔実施場所〕
1		疫学研究デザイン, EBMとPICO	野村 恭子	衛生学・公衆衛生学 〔Web Class〕
2		横断研究	野村 恭子	
3		Case Control Study	野村 恭子	
4		Cohort Study	野村 恭子	
5		RCT	野村 恭子	
6		スクリーニング検査	野村 恭子	
7		メタアナリシス	野村 恭子	
8		質的研究と混合手法	野村 恭子	
9				
10				
授業形態および成績の評価方法・基準				
WebClassでの講義30時間＋自学自習15時間、計45時間で1単位とし、評価は提出したレポートの内容を考慮して行う。				
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)				
野村 恭子, knomura@med.akita-u.ac.jp				
その他特記事項				
<p>履修に関する情報: WebClassにて講義を各自視聴する。 ※視聴推奨期間 4月下旬～12月31日 課題提出のスライド各回の最後に付すので、上記の問い合わせ先まで提出すること。</p> <p>教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。</p> <p>自学自習における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。</p>				